

高校総体や様々な大会などが2年ぶりに実施でき、今年は例年に近い夏が近づいてきています。大切な高校生としての時間をそれぞれ効果的に使って有意義な毎日をご過ごしてください。

現在、全校で取り組んでいる「三高みんなの食堂プロジェクト」は授業でも部活動でもありません。指から感じてもらいたい、でもなく、成績がつけ考えてもらいたいこと、動として主体的に取りや環境の豊かさ、そして三高生のことを大切にしたいこと、取組むことに対して、方々の思いを肌身で感じ、それぞれの立場で自分じとり、この地域の良さができることは何かをさを感じて心に留めておいてもらいたいという事です。

あり、運営母体であるPTA、食の提供を引き受けてくれている農業法人の方をはじめ地域の方や卒業生、大学生に加わってもらいながら「一緒に新たな形の食堂を創り上げていく活動です。」「プロジェクト」は授業でも部活動でもありません。指示されて活動するものから感じてもらいたい、でもなく、成績がつけ考えてもらいたいこと、動として主体的に取りや環境の豊かさ、そして三高生のことを大切にしたいこと、取組むことに対して、方々の思いを肌身で感じ、それぞれの立場で自分じとり、この地域の良さができることは何かをさを感じて心に留めておいてもらいたいという事です。

てくれています。リーダーとして役割を果たすことは当然大きな貢献です。しかし、このプロジェクトはリーダーではない参加者の果たす役割が大きいのです。良い方向に発展していくかどうかの重要な部分を担っているの

ユニーを食べること。食プロジェクトはあります。食べるだけでなく、野菜などを買って帰ること、リーダーに声をかけて活動や応援することや、地域や食堂、食材などについて考えたり知ったりすること、SDGの視点をもつことも参加です。何よりこの

性をもった活動になり、また、今後の食堂の新たなスタイルの提案でもあり、三高だけでなく多くの高校生が、目標や使える時間はそれぞれなので、かわり方は違ってくると思いますが、互いに尊重しながら食堂を良くしていくという目標に向かうことは

ことです。将来、そういったことが自然とできる人であってほしいと願っています。誰かだけでもなく状況に合わせて無理なく活動して、周りも応援していく、そのような人の集まりであればそこは自然と開拓者となるべく、誇りを持って取り組んでいきましよう。

すべての三高生が主体的に活動する場

校長 泉谷俊郎

みなで力を合わせて自分たちの食堂を良くしていくこと、これは将来社会人となってコミニティーの一員として社会参画していきとときのイメージでもあります。身についておいてもらいたい視点であり、意識や感覚より良いコミュニケーションを作り上げる人として歩んでいきたいと願っています。

力です。将来、そういったことが自然とできる人であってほしいと願っています。誰かだけでもなく状況に合わせて無理なく活動して、周りも応援していく、そのような人の集まりであればそこは自然と開拓者となるべく、誇りを持って取り組んでいきましよう。